陳　述　書

2018 年 3 月 23 日

佐賀地方裁判所　御中

住所　福岡市西区
氏名　えとう真実

福岡市西区在住の江藤真実です。
中学校１年生の息子と小学校５年生の娘がいます。息子が１歳になったころ、今の家を建てて引っ越しました。その頃は福岡市内では玄海原発に近い場所であるということは全く考えませんでした。

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故が起きたのは、息子が小学校に上がる直前です。長崎出身の私は周りの友人たちよりも「放射能」や「被ばく」ということに敏感だったと思います。
原発事故に関するテレビのニュースに違和感を覚えて Twitter を始め、パソコンにしがみつくように、子どもがいない間、子どもが寝てしまってから、情報を集めました。その頃のことを思い出すと、今でも胸が苦しくなります。

私の家族は人間だけでなく、９匹の猫も一緒に暮らしています。福島で避難した人たちは、すぐに自宅に帰れると思って、犬や猫を置いたまま避難しました。その後におきた酷い出来事をここで話すことはできませんが、人間が作った原発の事故で何の罪もない生き物が数限りなく犠牲になったという事です。2016 年１月に汚染地帯で発見された狐の死骸の大腿筋を測定したところ 18000Bq／Kg であったという記事をみたときは人間の罪深さに体が震えました。

2011 年の５月、このまま情報を集めて自分だけが対策をするだけではどうにもならないと考えて、生まれて初めてデモに参加しました。
当時６歳と４歳だった子どもたちを連れていくにあたり、上の子にだけでも「なぜデモに参加するのか」を伝えたくて、原発のことと福島で起きていることを話しました。息子は「まだ６年しか生きとらんとに、そんなの（原発）がたくさんあって、どうやって生きていったらいいとよ」と私にききました。あの時の衝撃は忘れられません。
まさかそんな言葉が返ってくるとは思ってもいなかった自分の傲慢さ。ただ被害者であるだけの大人はいないのです。初めてこれまで何もしてこなかった自分の無責任さを思い知り、心底後悔しました。そこが私の活動の原点です。そして息子のその言葉は、すべての生き物たちの言葉でもあるのだと感じています。

疑問をもって情報を集めれば集めるほど、信じられないことばかりが起きていることがわかってきました。事故直後、内部被ばくを避けるために、国策として食品の流通が変わるだろうと考え、それも仕方がないと覚悟しました。しかし流通はほとんど変わりませんでした。その代わり、飲食物の放射能安全基準値がありえないくらいに緩く定められました。

九電交渉にもできる範囲で参加してきました。申入れに参加して、具体的な返事を聞いたことも、誠意を感じたことも一度もありません。福島の原発事故でも国や電力会社は十分な補償を行っていません。チェルノブイリでは義務的に移住しなくてはならない線量のゾーンであっても福島では人が住んでいます。更に避難指示の解除にともない、この３月で家賃や慰謝料も打ち切られることになっています。
Twitter を通じて、福岡に自主避難してきた皆さんから連絡をいただくことも多く、そこからお付き合いが始まった友人たちが多数います。みなそれぞれ違う時期に福岡に移住してきましたが、皆さんその費用は自身で負担しています。経済的に逃げたくても逃げられない人たちがどのくらいいるのか予想もつきません。

移住の理由は、既に健康被害がみられた人、将来的な健康不安を考えた人など様々ですが、健康被害を感じていた人においてもばらつきがあり、家族間でも違います。そこに因果関係をみつけることは難しいのです。因果関係がはっきりしなければ企業が責任を問われることはありません。

福島の原発事故は、電力会社に、事故が起きても補償はそこそこで打ち切ることができるという不条理な前例を作ってしまいました。だから各電力会社は平気で再稼働をしようとしています。責任を取る必要がないのだから目先の利益の為に原発を動かすのです。

そもそも電力不足はありえません。脱原発を決めて自然エネルギーへと舵をとっている国はもう日本のだいぶ先をいっています。日本が脱原発を目指さなかったからいまだに原発をとめたら電力が足りないと言わなければならないのです。

また電気やエネルギーは命や環境と天秤にかけられるものではありません。重大事故が起きればいかに多くの命が犠牲になるのか、健康を失うのか、私たちは思い知ったはずです。それは立地自治体だけでなく、県を超え、国を超え、地球規模の環境汚染となってそこに生きるすべての命を脅かしています。そのことがほとんど知らされていない事実に憤りを覚えます。

原発は安全だという言葉はTVや新聞やあらゆる媒体に流されていて、私もどこかでそれを信じてきました。浅はかでした。事故はおきる、そして事故がおきても、人間にはなんの手立てもないのです。私が住んでいる福岡市は西風の時は玄海原発の風下になります。福島原発事故のときの飯館村と同じ位置です。目に見えず臭いもしない放射性物質が気づかないうちに襲ってくるかもしれません。汚染を完全に除去することは不可能に近く、私たちはただ黙って被ばくするだけです。そして他の生き物も被ばくさせ、未来の子どもたちも被ばくさせます

避難計画もあってないようなものです。30Kmを超える地域は自宅待機。これ一つとってもどれだけいい加減かがわかります。真夏だったらどうするのですか？エアコンも使えない、風を通すこともできない環境で家に閉じこもったら、熱中症になるでしょう。家族で自宅待機できるまでにどれだけ被ばくすることか。考えただけで恐ろしく、身震いがします。事故がおきる時間帯も季節も、なにも想定されていないかのような避難訓練を視察するたびにうんざりします。動物を連れた避難訓練も腹立たしいほどにお粗末でした。とても家族を守ることなどできないと絶望的な気持ちです。また電力会社の事故を想定した避難訓練を、なぜ自治体が税金を使ってやるのだろうと、別の疑問も湧いてきます。自然災害は避けられないから避難計画が必要です。でも原発は人間が作ったもの、人間がやめることをきめれば原子力災害はおきません。避難計画を立てることもなくなります。

もしも玄海原発で事故がおきたら、私たちの暮らしは一変するでしょう。

命を失うことがなくても、家族の健康を守るために、福岡に移住してきた友人たちのようにこの地を離れることを余儀なくされるかもしれません。住宅ローンを払い続けながら、仕事もやめざるを得ない、親しい友人たちとも離れてしまうという状況を家族全員で受け入れることができるでしょうか。今の暮らしは根こそぎなくなってしまうのです。

それだけではありません。いったん事故をおこしてしまうと、廃炉にすることもままならないのは福島の現状をみると明らかです。誰がその作業をするのでしょうか。燃料を掘り起こすところから始まる被ばくの問題は、永遠につきまといます。それは差別の問題でもあり、人権の問題でもあります。安全な再生可能なエネルギーが他にもあることを私たちは知っています。電気をつくるために誰かが犠牲になるべきではありません。

再稼働はやめてください、再稼働している原発は止めてください、そして原発を廃炉にすると決めてください。もう選択肢はありません。